



平成 25 年 12 月 18 日

甚目寺南小学校・甚目寺小学校地区委員会の意見等

【1】学区見直し（甚目寺南小学校の一部の児童を甚目寺小学校へ転校させること）について

◎平成 25 年度中に方向を決定することは「不可能」と考えます。

◎平成 26 年度以降も学区の見直しを検討することは「困難」と考えます。

甚目寺南小学校区内の本郷地区が最も甚目寺小学校に近い位置にあることを考慮して、本郷区を学区見直し（転校）の地域として検討してきました。

8 月から 9 月にかけて本郷区を対象に実施したアンケートによりますと、甚目寺南小学校の規模が大きい（児童数が多い、グラウンドが狭い）ことは認識していますが、より通学距離が遠くなる甚目寺小学校へ学区を見直す（転校する）ことに対する理解が得られていません。

平成 25 年度現在、甚目寺南小学校の児童数は 933 人、甚目寺小学校は 655 人で、合わせて 1,588 人です。もし、甚目寺南小学校から 150 人を移すとした場合、甚目寺南小学校の児童数は 783 人、甚目寺小学校は 805 人となり、教育委員会から示された適正規模児童数 500 人～700 人をどちらも上回ってしまいます。よって、甚目寺南小学校の一部の児童を移すこと自体に意味がない（効果がない）と考えます。

学区の見直し（転校）について、市（教育委員会）が先送りすることは、保護者や子どもの心情として「先が見えないままの不安感」が毎年度先送りされ延々と続くことになるため、学区の見直し（転校）については 26 年度以降も「困難」であると考えられます。よって、甚目寺南小学校の一部の児童を甚目寺小学校へ転校させることについての検討は「中止」とすることが望ましいと考えます。

【2】甚目寺南小学校の教室不足について

◎甚目寺南小学校の敷地内に（又は近隣の土地を購入して）教室を整備（新築）する必要があると考えます。

平成 28 年度には普通教室が不足する問題があります。【1】で学区の見直し（転校）が事実上不可能と判断しましたので、教室不足に対応するためには、教室そのものの数を増やす必要があります。ただし、教室の数を増やすことは、

甚目寺南小学校が大規模校であることは解消されません。

甚目寺南小学校の施設を整備するためには、学校の敷地内に教室を増築することが望ましいと考えます。第3回の委員会で委員から提案された校舎の北側のスペースを利用して教室（普通教室や特別教室など）を整備し、平成28年度の教室不足を解消するものです。

この場合、教育委員会が考えているプレハブ校舎ではなく、将来にわたって使えるように本格的な施設にしていきたいと考えます。

さらに、グラウンドが手狭であるため、例えば、南側の民地を買収するなどしてグラウンドを拡大していただくことが望ましいと考えます。

これら教室の増築やグラウンドの拡大については、市の財政的な負担が相当発生しますが、教育委員会と市当局は調整、連携のうえ、事業化を進めるべきと考えます。

【3】その他（今後の展望）

平成25年度現在、甚目寺南小学校と甚目寺小学校の児童数は合わせて1,588人です。甚目寺地域は、全国的に人口が減少傾向にある中であっても、人口は微増しており、今後もこの状況はあまり変わらないと思います。

そのため、仮に、【2】のとおり教室を増築した場合であっても、甚目寺南小学校は大規模校のままの状態が続く可能性が高いと思われます。

本来、1,588人の児童に対して、500人～700人程度に収まる適正規模の学校数は単純計算で3校になります。

あま市全体で見た場合、人口の重心が甚目寺地区に偏っており、土地利用計画（状況）からみても、この人口分布が今後、急に変化するとは考えられません。

そのため、教育委員会が進める学区の見直しにより、人口密度が高い甚目寺地区の児童を、七宝地区や美和地区の小学校へ変更（分散）させることには限界があると言えます。

従って、今後の人口の推移を見極めながら、甚目寺南小学校及び甚目寺小学校区を中心に新設校の建設を視野に入れた検討をする必要があると考えます。



25. 12. 20

平成25年度あま市立小中学校適正規模等に向けた学区見直し
についての教育委員会の方針
(甚目寺南小学校・甚目寺小学校地区)

甚目寺南小学校で課題となっているのは、次の2点です。

第1点は、「児童数933人、普通学級26クラスを抱える**大規模校**であること」です。

第2点は、「今後の児童数や学級数の推移から判断すると、平成28年度には**教室不足**になること」です。



市教育委員会では、**大規模校解消**や**教室不足対策**として、今年度、地区検討委員会を立ち上げ、甚目寺南小学校区内の本郷地区が最も甚目寺小学校に近い位置にあることを考慮して、本郷区を学区見直し（転校）の地域として検討してきました。また、本郷区を対象としてアンケート調査も実施しました。

その結果、学区見直し（転校）に理解していただけない住民（本郷区民）の切実な思いがあり、この事実を重く受け止める必要性を実感しました。そのため、委員の皆さんのご意見にもありますように、**学区の見直し(転校)については中止**せざるを得ないと考えます。



2つの課題	大規模校解消	教室不足対策
教育委員会の考える方向性	学区の見直し（転校）を中止したことを含め、実効性のある別の具体的な方策について、今後の児童数の推移を毎年度見極めながら引き続き考えていく。 26年度以降、新たな検討委員会を立ち上げ、様々な観点から大規模校解消に向けた検討を行う。(いろいろな方策の可能性を探る場とする)	喫緊の問題として平成28年度に間に合うように甚目寺南小学校の敷地内に教室を増築することを考えていく。(プレハブ校舎ではなく、将来にわたって使える本格的な施設を整備する) 具体的な場所や規模は委員の皆さんのご意見にあります校舎の北側も選択肢の一つとして、教育委員会・市長部局と調整して進めていく。